

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3 年 3 月 15 日

事業所名 株式会社グットトライ ハピネス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		限られた空間の中で、パーティションを用いるなどしてペースの確保はできている。	より広い空間で支援できるよう、店舗の移転を検討している。
	2	職員の配置数は適切である	5	1	配置基準を満たし、適切な運営ができています。	今後は国家資格などの有資格者を積極的に採用し、質の高い支援を目指す。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		段差も少なく、バリアフリー化できている。	今後、移転を検討しているので、移転先でも引き続きバリアフリー化を徹底していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		毎日の掃除を実施し、常に清潔を保っている。	引き続き日々の清掃・片付けを実施し、特にウイルス感染しないよう消毒を徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		日々のスタッフミーティングでPDCAサイクルを取り入れ、実践している。	引き続き、スタッフ間のコミュニケーションを密にしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者さまの貴重な意見を素直に受け止め、より安心して預けていただけるよう精進していく。	指摘いただいた部分はしっかりと受け入れ、スタッフミーティングにて改善をしていく。また、お褒めいただいた部分についても慢心することなく引き続きより良い事業所作りに励んでいきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		アンケート結果をもとに、スタッフでの改善を取り入れ、公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	提携会社、協力会社による定期的な評価がある。	今後は同様のサービスを展開している会社さまへの評価依頼も取り入れていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		定期的に社内研修や出張研修に職員を派遣している。	年々スタッフ研修の機会は増えてきているので、今後も幅広い分野への研修参加を検討していきたい。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		同法人に配置されている書類管理スタッフが定期的に研修参加し、スタッフの意向を踏まえて書類の見直し、利用者主体の計画、書類になるよう努めています。	管理者を中心として、スタッフ全員で計画作成会議を行うことで、多くの視点での意見があり、幅広い支援ができていますので引き続き取り組んでいきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			基本的なアセスメントシートを基準として、独自のシートを活用して服薬状況などを把握している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、	6		スタッフ全員が同じ意識でしっかりと協議をしていることで、広い視野を盛り込んだ計画作成ができています。	引き続き、「利用者主体」のサービスが提供できるよう、徹底していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		日々の支援記録の中に、支援計画の内容を取り入れている。	支援計画を軸として日々の支援ができるように支援記録にも取り入れているので、記録の際に「計画をもとに支援できているか」を確認できる。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		事業所内だけでなく、協力会社のバックアップも受けながら、他では体験できないような活動を取り入れるようにしている。	今後も、ホエールウォッチングやマリンスポーツなどを通して、一つでも多くの成功体験を提供していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
の 提 供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		日々のミーティングはもちろんだが、良い案があった際には会議を持ち、検討している。	活動のバリエーションをもっと増やすことができるように、引き続きスタッフ間で話しあっていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		個別活動と集団活動を組み合わせて、長所と課題を明確にしている。	新年度や季節の変わり目などは特に状態が安定しない児童も多いので、スタッフ間で情報共有をして個別での対応をしていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		日々の会議の際に確認している。休みでないスタッフにはMTGノートを活用して共有している。	スタッフ間での情報共有が一番大切だと思うので、情報漏れがないよう今後も情報共有を徹底していきたい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		保護者からの情報（送迎時の伝達事項）も共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日々の記録は徹底できている。	支援計画を軸として日々の支援ができるように支援記録にも取り入れているので、記録の際に「計画をもとに支援できているか」を確認していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		計画相談員と協力し、PDCAサイクルを実施している。	モニタリング終了後は管理者だけが把握するのではなく、スタッフにも共有している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		管理者だけの参加ではなく、必要に応じて担当スタッフも介入している。	児童の状況はスタッフ一人ひとりによって見え方も違うと思うので、今後も管理者プラスαで適任者も参加していきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		市町村の担当者様との連携も取れている。	今後も、密に連携を図っていきたい。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		6	現在、医療的ケアが必要な児童がいないため、「いいえ」へ回答しています。	今後、医療的ケアが必要な児童を受け入れることも考えられるので、その際にはしっかりと適切な連携、対応をしていく。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		6		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		進級の際には、担当者会議に参加して情報の提供と共有をしている。	引き続き、児童が新しい環境に対応しやすいように情報の提供と共有をしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		進級の際には、担当者会議に参加して情報の提供と共有をしている。また、送迎の際などに教師との情報共有をしている。	定期的な情報の提供、共有を徹底し、今後は明確な引き継ぎ書類等を用いることも検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		定期的な研修に参加している。	支援内容がマンネリ化しないよう、常に新しい情報、意見、思考を取り入れていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	児童館や公園で交流している。	回数が少ないので、もっと頻度を増やしていきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6	今年はコロナウイルスの影響で地域との交流機会がなかったため、今後検討していく。	コロナウイルスが落ち着いたのちに、街の清掃や祭りなどに積極的に参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳を用いて日々の様子を共有している。	電話連絡、LINE、メール、連絡帳など様々なツールを使っているため、今後も保護者との連絡が取りやすい環境を提供していきたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6		毎年保護者向けの研修を行っているが、今年はコロナウイルスの影響で開催できない代わりに家庭での接し方のお便りを配布した。	「こんなことが知りたい」「こんな時はどう対応したらいい？」など、保護者さまの困り感をしっかりとキャッチしたのちに、今後も保護者との勉強会を実施していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		契約の際に読み合わせ、説明したのちに同意を得ている。	契約後も要望があれば開示できるようにしている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	3	毎年、保護者と交流できるイベント（BBQや勉強会）を実施していたが、今年はコロナウイルスの影響で開催できない代わりに家庭での接し方に関するアドバイスのお便りを配布した。	コロナウイルスの状況を見ながら、可能であればイベントを開催し、イベントが厳しい場合にはスケジュールを確保して家庭訪問のような形で対応していく。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			6	毎年、保護者と交流できるイベント（BBQや勉強会）を実施していたが、今年はコロナウイルスの影響で開催できなかった。	コロナウイルスの状況を見ながら、可能であればイベントを開催し、イベントが厳しい場合にはスケジュールを確保して家庭訪問のような形で対応していく。リモートでのイベント開催も検討していく。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			連絡帳やメール、ライン、電話を活用して相談できる窓口を幅広くしている。	業務時間外の連絡が多いので、その際は管理者が対応できるように体制を整えている。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月、保護者様へお便りを発行している。	今後はお便りやブログ、ラインだけでなく新たなSNSも活用していくことを検討する。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	6			情報が外部に漏れることのないように、定期的にスタッフ間で確認している。	ファイルなどが入った棚は常に施錠している。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			手話、ジェスチャー、iPadを用いている。	引き続き、スタッフの手話講座などを徹底して、情報をキャッチしやすい環境を作っていく。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			6	今年はコロナウイルスの影響でイベントを開催できなかった。	コロナウイルスの状況を見ながら、地域に根付いた事業所を目指していく。
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			各種マニュアルを研修時に確認するとともに、年に2回訓練を実施している。
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		6				
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		6			契約時の服薬状況を基本に、対応方法マニュアルを作成して事前に確認できている。	今後も、フェイスシートの確認はスタッフ間でしっかりと徹底し、万が一に備えておく。
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		6			事前に保護者から情報もらい、おやつ提供時など食事の際には配慮できている。	病院受診後は診断書やお薬の情報をもらい、児童の健康管理に努めている。
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		6			定期的なミーティングの際に、スタッフ間で共有できている。	安全を第一に考え、事件や事故が起きないように引き続き予防を徹底する。
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		6			年に1回以上、研修を受けている。	虐待はあってはならない事なので、今後も定期的に学んでいく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		契約書、重要事項説明書に記載し、また本人の特性を事前に個別支援会議等で確認している。	引き続き、利用開始時に個別支援会議を開催して児童の特性を理解し、適切な対応をしていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。